

ロータリーの社会奉仕

オリジナルの英語で奉仕は Service です、社会は Community です。コミュニティーペーパーといえは地域の情報誌のように、自分の身の回りのことです。

ロータリーの原点はPハリスが仲間と共に、談話と食事を共にした仲間の親睦 Fellowship です。クラブ会員仲間の良く知った身内で、安心出来る取引、確実な仕事、職業人専門家として信頼される技術、これで仕事を拡大する。これが Vocational Service 職業奉仕です。これに共感しクラブの会員は増えましたが、仲間だけで旨いことを一人占めするのは、利己主義ではないかとある人からいわれました。そうだそれなら世の中に良いことをしようと、1907年にクラブ主導で資金を集め行政を動かし、シカゴに公衆便所が作られました。これが Community Service の始まりです。そして世界中で良いことをと国際奉仕に発展しました。人に喜んで貰いたい、そして自分も儲けたい、このバランス、これがロータリーは人間の生き方、人生哲学といわれる所以です。クラブはどのように行動すべきか、一度手続要覧の114～116ページをご覧ください。

ロータリーは I Serve が原則で、クラブが団体として行動する We Serve ではないといわれます。今東日本大災害の被災地に自衛隊が派遣されています、ボランティアの人達も働いています。自衛隊は組織として命令を受けて行動しています。ボランティアは個々で参加していますが、現地で登録し、NPOの指示で大勢が協力して、瓦礫の撤去や住宅の清掃をしています。個々で参加し皆で力を合わせて協力するのがロータリーのやり方です。I Serve にはお金を出すことも、自分の汗を出すこともあります。震災で怪我人が大勢出れば一人の医師がコツコツ手当てをしている内に、時間がかかり過ぎ

れば悪くなる人も出てしまいます。大勢で一気に手当てをしなければなりません。長い木材は一人では運べませんが、二人なら運べるでしょう。皆で協力しましょう。

今年は「国際森林年」で酸素を出してくれる植物に注目しましょう。アマゾンの原生林が、バイオ燃料のトウモロコシを作れば金になるというので、破壊されています。また日本の田畑も宅地造成と、農業従事者の高齢化でどんどん減少しています。大戦中燃料として山の木は切られました。戦後は成長の早い外国種の杉が植えられましたが、安い外材に押され間伐もされず、荒れて大量の花粉を散らしています。営林署が広葉樹のブナを切り倒し杉を植え、その杉山の斜面全体の木を切る皆伐は、手間を省きますが山の保水力を減らし、次の世代の木の再生にも影響するでしょう。山形の西蔵王の桜も一株から数本生えていて大きな木に成っています。山のブナも「あがりこ大王」など言われる巨木がありますが、昔燃料にした切り株から再生したものでしょう。自然破壊と思われる、赤カブを植える焼き畑も、翌年は必ず植樹をしては30年サイクルです。これからも皆で力を合わせ、里山を見守り大切にしましょう。

平成23年4月 国際ロータリー第2800地区次期クラブ会長研修セミナー

社会奉仕部会基調講演

社会奉仕の原点

ロータリークラブの会員はなぜクラブ例会に参加するのでしょうか。ロータリークラブが作られ広まった原点を考えると、友人との気楽な会話、親睦と異業種の人との交流により自分の品格を高め、職業でも称賛されるような良い仕事をしたい、商売でも安心して付き合いたいが、ロータリーが広まった基でしょう。自分の生活が落ち着くと、周囲の人にも喜びを与えたい、世の中に良いことをしたい、自分も一緒に楽しみ喜びたいと思うのが人間だと思います。

手続要覧の第1章の最初のページに、クラブ奉仕、職業奉仕、そして社会奉仕 Community Service、国際奉仕、新世代奉仕と並んでいます。この社会は Society ではなく Community なのです。クラブの周辺の地域社会です。シカゴ・ロータリークラブは世の中が男性社会の昔に、女性が街に出た時トイレに困っているという声を受けて、自分達が資金を出し、行政を動かし場所を確保し、共同便所を作ったのが社会奉仕の最初です。

四つのテストでも日本語では省略されていますが、2番4番の公平か、みんなのためになるかには、原文では to all concerned、周囲の関係者という文言が入っています。この地域社会をどの範囲でとらえるか、町内会レベルか、町、市、県、東北地方、日本かアジアか、これは個人の感性です。東日本大震災の地震や津波の被災者に、義捐金や支援物資、さらに休日ボランティアで清掃、復興の手伝いに行くのも、その人の善意の表れです。

善意を表すのに誰かが口火を切らなければなりません、それなら社会のリーダーを自任するロータリアンが言い出して行動を起こすべきです。自分で動き汗をかくのは疲れるし、やりたくないかもしれません。しかし人のためになることを自分からするのが奉仕活動

です。I serve か、We serve か、利己と利他との葛藤、これは昔から議論されてきました。そこで一度手続要覧の日本語版 114～116 ページ、英語版 104～105 ページに目を通してください。

最初に走り出すのは1人でも、大勢が共感して動き走りだせば、個人のジョギングが大きなマラソン大会に発展します。

ロータリーの社会奉仕は、売名でも慈善事業でもありません。「地域の人達に良いことをしよう」が原点です。地区でもクラブでも、委員会活動でお互いに切磋琢磨し、地域に良いことをしましよう。

平成23年4月 国際ロータリー第2800地区 地区協議会社会奉仕委員会基調講演